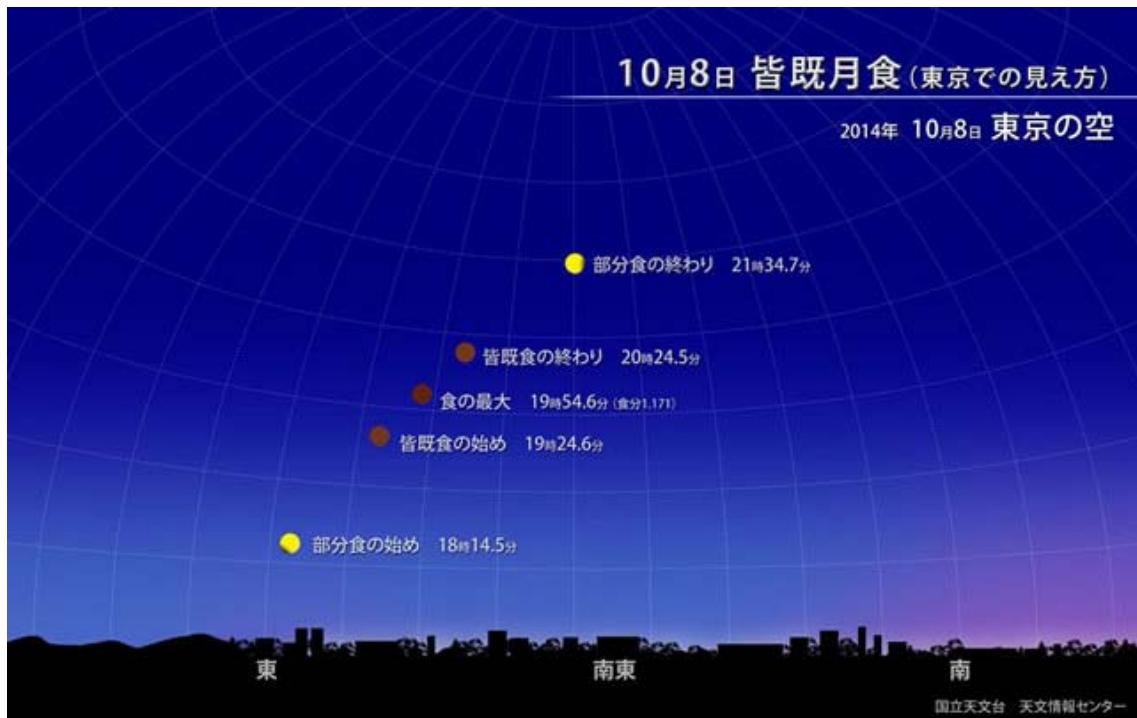


2014年10月8日の皆既月食について

日本全国で皆既食を見る事ができます。石垣島以西の地域では月がわずかに欠けた状態で昇ってきますが(月出帶食)、それ以外の地域では部分食を始めから見ることができます。



部分食の始め 皆既食の始め 食の最大(食分 *) 皆既食の終わり 部分食の終わり

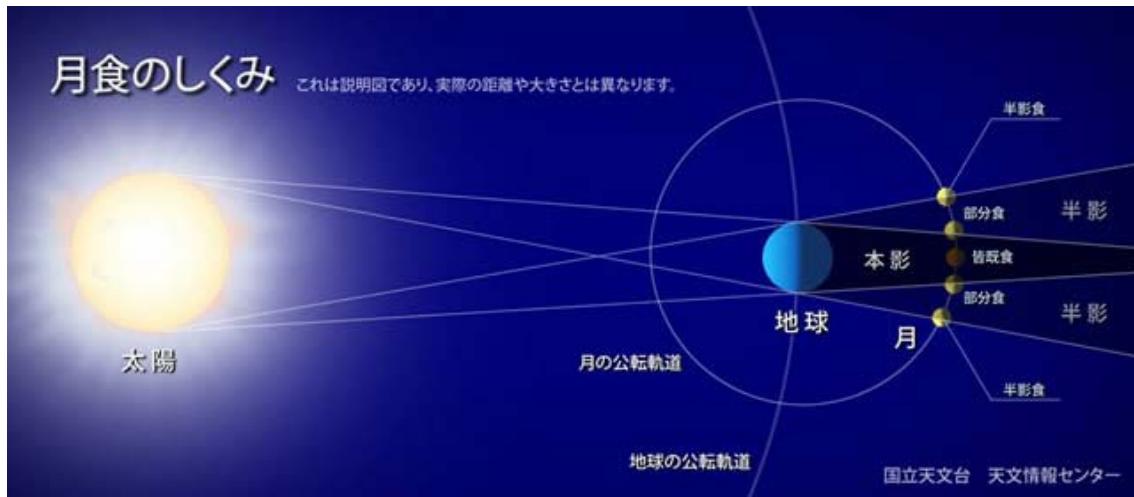
8日18時14.5分 8日19時24.6分 8日19時54.6分(1.171) 8日20時24.5分 8日21時34.7分

月食とは

地球と月は太陽の光を反射して輝く天体です。地球(月)にも太陽の光による影があり、太陽とは反対の方向に伸びています。この地球の影の中を月が通過することによって、月が暗くなったり、欠けたように見えたりする現象が「月食」です。

月食は、太陽-地球-月が一直線に並ぶとき、つまり、満月のときだけに起こります。ただし、星空の中での太陽の通り道(黄道)に対して月の通り道(白道)が傾いているため、ふだんの満月は、地球の影の北側や南側にそれた位置になります。満月のたびに月食が起こるというわけではありません。

地球の影には「本影(太陽光がほぼさえぎられた濃い影)」と「半影(本影を取り囲む薄い影)」の2種類があり、月がどちらの影に入り込むかによって、月食の呼び方が変わります。



観察のしかた

月の位置を確認しておこう

月が大きく欠けてしまってからでは、月を探すのが難しいことがあります。月の位置を早めに確認しておきましょう。

肉眼で十分、双眼鏡・望遠鏡があるとなおよい

月食は、肉眼でも十分観察できる天文現象です。満月が地球の影によって刻々と欠けていき、完全に影に入って「赤銅色」となり、その後また復元する様子は、ただ眺めているだけで楽しいものです。地球の本影の中に入ったときの月面の色と明るさが、影の縁と中心近くで異なることや、本影の中を月が横切るにつれて変化していく様子がわかるはずです。

双眼鏡や望遠鏡を使うと、地球の影が月面のクレーターや海を横切って移動していく様子や、皆既食中の月面の色や明るさの変化などがより鮮明に観察できます（注1）。双眼鏡を三脚に固定すると、手ぶれの影響もなくより快適に観察ができます。

注1: 満月では、月面に太陽の光が正面からあたっているため、クレーターの凹凸はあまりはっきりとは見えません。